

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393600055		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=3393600055-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は、高齢になり、身体も思うようにならないことも多くあります。今できることを楽しみながら、生活ができるように、趣向を凝らして地域行事に積極的に参加します。できるだけ、今までの暮らし方を大切にし、季節や習慣に合わせた献立を考えて「楽しく食べる・生きる喜び」を支援します。
「ここにいて良かった」と、本人・家族が思えるように支援します。
水分補給や体調管理に努め、認知症の重度化を防ぐための工夫に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「人として幸せに安心して生きられる日々を大切に」を掲げ、利用者が生きがいのある生活を送り、ゆったりと呼吸ができるよう、職員は自問自答しながら日々支援に努めている。利用者一人ひとりが過ごしてきた生活歴を、家族等に聞き、取り入れている。入所後間もない利用者に、落ち着いて過ごしてもらう為、家族に何が趣味だったかを確認し、好きな音楽のCDを持参してもらった。日中音楽を流す事で、利用者は穏かな日常を取り戻す事が出来ている。
地域交流にも努めている。今年度は植月地域文化祭に、モップ・箸置き・毛糸のたわし・におい袋等、たくさん作品を出展した。におい袋は、庭で育てたラベンダーをドライフラワーにし、職場体験に来た中学生と一緒に作った作品である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、自覚と責任感を持ち、理念に沿った対応を心がけて、実践している。	理念を事務所に掲示し、職員へ周知を図っている。理念とは別に「一日一笑」を目標に掲げ、利用者に「楽しかった」と言って笑顔で過ごしてもらえる生活支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を積極的に行い、地域の保育園・小学校などの慰問もある。地域のお祭りや文化祭などの行事にも参加している。	地域との交流を大切にしている。職場体験に来た中学生と、畑に植えたさつま芋を掘って食したり、植月地域文化際に出展する作品を作ったり、交流を楽しんでいる。保育園の運動会に招待され、慰問にも訪れてもらえる。	地域の方達に認知症について知ってもらえる機会として、「認知症カフェ」を開催したいと思っている。困った時にいつでも相談できる場所として提供したいと考えている。実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験・地域の役員研修・地域の文化祭など、機会がある毎に、認知症の理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内役員さんの協力を得て施設の改善や方法を助言していただいている。	今年度から家族の参加が4～5組あり、事業所の取り組みを伝える機会が出来た。利用者の状況を伝え、行事を案内している。役場と町内老人会の方からは、色々な助言をもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、出席していただいて、ホームの実情を理解していただいている。困難な時は、相談援助をいただいている。	行政には、運営推進会議に参加してもらい、「勝央たより」を渡して、他の職員にも取り組みを理解してもらっている。空床状況を伝え、急な措置にも対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ミーティングで、取り上げ、利用者の立場に立って、身体拘束をしない取り組みを行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ミーティングにて身体拘束について話し合い、具体的な該当する行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ、虐待に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、運営規程・重要事項説明書などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ、運営推進会議に参加していた だき、意見を求めるようにしている。	以前から「勝央たより」に、運営推進会議の案内をしていたが、家族の参加は少なかった。今年度から、案内状を送付し家族の参加を促した。お陰で、要望を聞ける機会も増え、運営に反映させる事が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで、改善が望ましいと判断した時は、管理者が、直接オーナーに相談している。	毎月職員会議を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。管理者は、職員が気持ち良く働けるよう、職員の話に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望などを優先している。資格取得には、協力し資格が取得できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上、認知症の理解など、意欲のある職員には、研修参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は少ないが、津山地域の研修会などで情報交換の機会ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から困っている事や、希望をたずねながら、寄り添い馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、困っていることを聴きながら、思いにより添うよう、より良いサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の様子を尋ねながら、どうしたら利用者の幸せか、介護者が困らないかを一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言をいただきながら、できることを一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や生活の様子をお伝えしている。また体調に変化があるときは、その都度連絡している。通院介助などできるだけ家族の協力をえて情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の習慣を尋ねながら、行事に積極的に参加している。	家族参加の花見と敬老会を実施し、家族が訪れる機会を設けている。今年度から、遠方の家族が毎回運営推進会議時に参加してもらえることとなった。家族の面会だけでなく、自宅へ2～3日外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互いを労り和やかになるように、ボール遊びなどを行っている。洗濯ものたたみなど、できる方には、指導していただく場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても困らないように、必要な情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の意思を汲み取るようにしている。意思の疎通ができないときは、家族と相談しながらより良い方法を見つけるよう努めて対応している。	出来る限り利用者に寄り添い、思いを汲み取っている。体操時も傍らに座り、微笑みかけ、一緒に手を取り、楽しんでいた。意向が解らない時は、家族に「何が好きだった」かを聞き、好きだった事を取り入れ、穏やかに過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を尋ねて家族や本人が納得できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日常の過ごし方、その日の状態の把握に努め、その能力に合わせて作業などを一緒に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尋ねながら、家族の要望や意見を尊重し、思いが実現できるよう努めている。モニタリングは、職員全員で行い、より良いケアの反映ができるよう計画書の見直しを行っている。	職員会議にて、利用者の状況について話し合いをしている。半年毎にモニタリングを行い、計画を見直している。介護計画の目標が具体的に記載されている為、モニタリングもしやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、バイタル・食事・水分量・排泄の様子・生活の様子や、エピソードを記録している。職員間で情報を共有しより良い介護計画の見直し・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の購入など、相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加し、保育園の慰問・小学校の慰問を受け入れながら、楽しく生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居後も変更しないで、馴染みの医師の訪問診療を受けている。かかりつけ医には、職員も相談・助言を受けている。	利用者の希望に沿ったかかりつけ医にて受診支援をしている。全ての医師が往診してくれるため、通院の負担も無く、家族も大変助かっている。歯科医も調子が悪い時には往診に来てくれ、居室で治療してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態の把握など、変化に応じて受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活や経過などを詳細に連絡し、対応が適切に行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の望みをかなえられるように配慮し、ホームでの対応が可能な範囲を理解していただき、誠実な対応に努めている。	看取りを行う旨を重要事項にも明文化している。最期まで世話をしたいとの思いで、常に支援を行っている。急変時は医師に連絡し、診察に来てもらうが、病院に救急搬送する事が多い為、看取りを実施する機会は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当ができるように救命救急講習の受講をしている。急変時には、看護師の指導を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームとの合同の避難訓練を実施し、全職員で災害時の対応を理解している。地域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実情を把握していただいている。消防設備事業者には、適切な器具の使用法などの指導をしていただいている。	年2回の内、1回は消防署指導の下、避難訓練を実施している。もう1回は火災報知機の業者に来てもらい、報知機や水消火器の使い方、火の消し方等を学ぶ。災害時は、隣接する事業所に連絡し、救援に来てもらえる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、情報収集に努め、本人の思いを大切に、自己決定しやすい言葉かけ、さりげない介護に努めている。	人生の先輩である利用者は、自分達より遥かに沢山の知恵や経験がある事を認識し、指導を仰ぐ姿勢を忘れない。トイレトーパーを体の隙間に隠す利用者には、トイレ時等にさりげなく取り外している。着替えを手伝う等を拒んだ時は、決して無理強いせず、見守りに徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から本人の希望を尋ねながら、いろいろな選択肢を提案し、自己決定を促している。自己決定ができないときも職員の都合を押し付けないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ職員は待つ姿勢でケアを行っている。その人らしい暮らしや、普通の生活を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定のできる方には、その日の衣類を決めていただいている。訪問散髪なども利用し、実情に合わせて行っている。身だしなみに関心が持てるよう雑誌などを見ながら、声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力により、食事の準備・配膳なども一緒にしていただく。食材の下ごしらえ、皮むきなども一緒にしていただくこともある。	白米に麦を混ぜ、健康に留意している。気管が狭く、嚥下に支障のある利用者には、ブレンダーを使用しミキサー食を提供しているが、ハート型に盛り付ける等、食欲が湧く様に工夫をしている。オムライスの際は、ケチャップで名前を書き、利用者に変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体重の増減を見ながら、食事の量を調整している。献立や調理を工夫し、感想を参考に満足ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて声かけをしながら、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレへ誘導介助を行っている。夜間は、利用者の様子を見ながら誘導介助を行っている。	排泄チェック表を付け、出来る限りトイレでの排泄に努めている。気分が乗らないとトイレで排泄しない利用者には、様子を観察しながら、根気良くトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを把握し、水分が十分摂れるよう工夫したり、食物繊維が多い食品や献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は決めているが、本人の希望を優先している。	入浴拒否をされない様、色々と工夫している。ぬるめの湯を好む利用者には、「温度が熱い」と言われれば、目の前で浴槽に水を入れ、湯加減を確認してもらい、気持ち良く湯に浸かってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて休憩や入眠ができるように環境を整えている。安眠に向けての生活のリズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて服薬介助を行っている薬剤師と相談しながら飲みやすいように粉碎するなど工夫している。薬の変更や状態は、全職員に申し送り医師と連携して状態の改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持って頂き、達成感を味わうことができるように、得意分野の仕事を一緒にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が困難になり、外出の機会は少なくなっている。が、車椅子で近所に散歩に出かけたり、買い物や支払いに出かける時も同行し、気分転換ができるように支援している。	同グループの、他の事業所にボランティアが来る時は、一緒に仲間入りしている。歩ける方は地域の祭りに参加してもらっている。毎年当林寺の「昔なつかしひなまつり」に出掛け、抹茶とお菓子を楽しみ、お礼に手作りの布巾を贈り、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することは出来ないが、一緒に買い物に行ったり、物の値段を見る、買いたいものを選ぶことはできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話をかけることもある。住所を記入をして、手紙を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、いつもボランティアにより、季節のお花がいけてある。居心地の良い空間づくりに努めている。	玄関に入ると、職場体験に来た中学生が書いた「みんな笑顔」の文字と笑顔の絵が出迎えてくれ、心が温まる。テレビが見やすい位置にソファを移動し、利用者が寛げる空間づくりに努めている。鯉のぼりやヒマワリの貼り絵を利用者と一緒に作成して飾り、季節を感じてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士が、テーブルを囲んで話し合ったり、お互いの居室を訪問するなど自由にすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や、作品を飾ったり、居心地の良い空間づくりに努めている。	使い慣れた家具等を持ち込み、寛げる空間づくりをしている。アルバムを持ち込み、懐かしい写真を何度も見返している利用者もいた。それぞれの利用者が、自分好みの居室で寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりに合わせた安全な環境にしている。衣類など出しやすいように、整理整頓を行っている。居室には、目線の高さで名札をかけている。		